

# 感染症発生動向調査委員会報告 3月

## 《今月のトピックス》

- 風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

## 全数把握疾患

3月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	風しん	50件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	麻疹	1件

### ＜腸管出血性大腸菌感染症＞

O157 VT2(無症状病原体保有者)1件の報告がありました。就職前健康診断で診断されましたが、周囲に有症状者等は認められませんでした。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

### ＜レジオネラ症＞

1件の肺炎型の報告がありました。感染経路等について現在調査中です。

### ＜アメーバ赤痢＞

腸管アメーバ症1件の報告がありました。ベトナムでの経口感染が推定されています。

### ＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞

1件の孤発性の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。

### ＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞

AIDSが1件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。どちらも国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

### ＜バンコマイシン耐性腸球菌感染症＞

1件のVanC型 (*Enterococcus gallinarum*) の報告がありました。原疾患は腫瘍による消化管穿孔で、抗生剤長期使用による感染が推定されています。

### ＜風しん＞

50件(男性、女性8件)の報告がありました。3件を除いてすべて予防接種歴が無いか確認できませんでした。昨年6月以降風しんの流行が続いていますが、今年に入り飛躍的に増加しています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています<sup>※</sup>。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆ 横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>



<麻しん>

10歳代の報告が1件ありました。4歳時に麻しんの予防接種歴が1回ありました。発熱、発疹、カタル症状から臨床診断されています。PCR検査は実施できませんでした。周囲に麻しんの感染者はいませんでした。平成25年4月1日より適用となる「麻しんに関する特定感染症予防指針」では、「臨床診断をした時点でまず臨床診断例として届出を行うとともに、血清IgM抗体検査等の血清抗体価の測定の実施と、都道府県等が設置する地方衛生研究所でのウイルス遺伝子検査等の実施のための検体の提出を求めるものとする」とされています。

**定点把握疾患**

平成25年2月25日から平成25年3月24日まで(平成25年第9週から平成25年第12週まで。ただし、性感染症については平成25年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

第9週	2月25日～ 3月 3日
第10週	3月 4日～ 3月10日
第11週	3月11日～ 3月17日
第12週	3月18日～ 3月24日

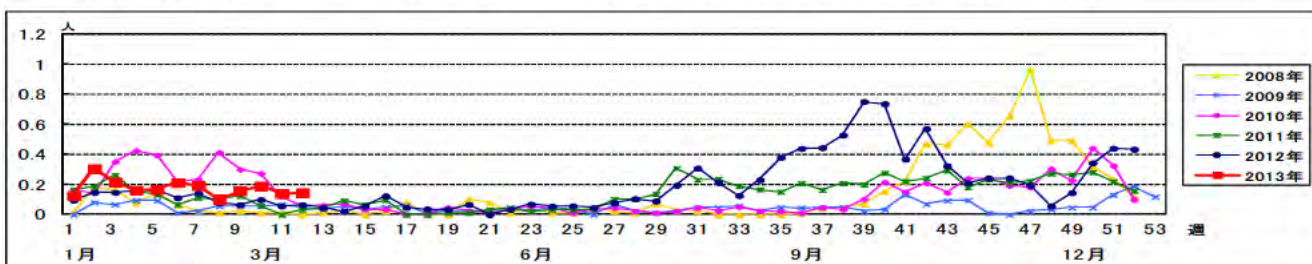
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

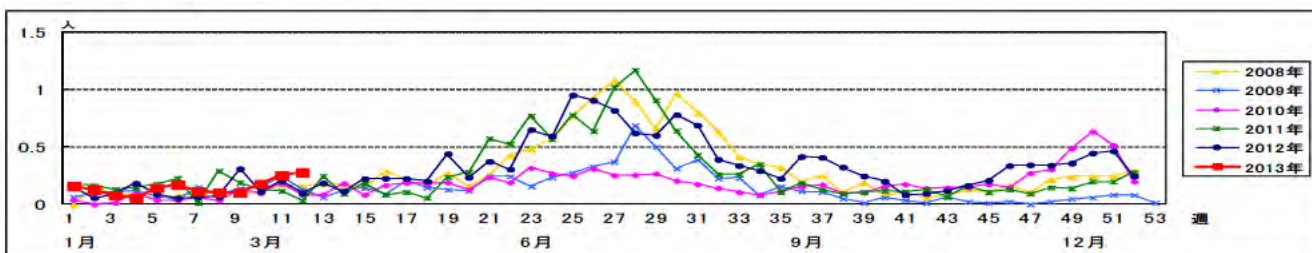
<RSウイルス感染症>

第12週は市全体で定点あたり0.15と、例年に比べやや報告数が多くなっています。RSウイルス感染症は感染力が強く、生後1歳までに70%、2歳までにほぼ100%が初感染を受けると言われています。また、再感染も多く、感染者の1～3%は重症化することが指摘されていますので注意が必要です。



<咽頭結膜熱>

第12週は市全体で定点あたり0.28と、例年に比べやや報告が多くなっています。特に、金沢区で2.60と報告が多くなっており、注意が必要です。



<性感染症>

2月は、性器クラミジア感染症は男性が17件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が7件です。尖圭コンジローマは男性5件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が16件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回り、第12週では0.58とやや落ち着いてきています。横浜市でも第9週0.33、第10週1.50、第11週1.00、第12週2.00、と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきましたが、まだ多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

2月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点63件(鼻咽頭ぬぐい液56件、ふん便6件、吐瀉物1件)、内科定点10件(鼻咽頭ぬぐい液10件)、基幹定点2件(鼻咽頭ぬぐい液1件、髄液1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い含む)23人、上気道炎19人、気管支炎10人、胃腸炎7人、RSウイルス感染症1人、アデノウイルス感染症1人、発疹症1人、中耳炎1人、内科定点はインフルエンザ(疑い含む)9人、上気道炎1人、基幹定点は無菌性髄膜炎1人、気管支炎1人でした。

4月9日現在、小児科定点のインフルエンザ患者14人からインフルエンザウイルス(以下Inf.)AH3型、インフルエンザ患者6人と上気道炎患者2人、気管支炎患者2人、アデノウイルス感染症患者からInf.B型(山形系統)、インフルエンザ患者2人からInf.B型(Victoria系統)、内科定点のインフルエンザ患者3人からInf.AH3型、1人からInf.B型(山形系統)、1人からInf.B型(Victoria系統)が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者4人と気管支炎患者2人からライノウイルス(このうち1人はアデノウイルスとの重複)、上気道炎患者1人と気管支炎患者2人、RSウイルス感染症患者1人からRSウイルス、上気道炎患者3人からアデノウイルス、インフルエンザ患者1人と上気道炎患者1人からInf.B型、気管支炎患者2人からヒューマンメタニューモウイルス、内科定点のインフルエンザ患者2人からヒトコロナウイルス、インフルエンザ患者1人からInf.AH3型、上気道炎患者1人からヒューマンメタニューモウイルス、基幹定点の気管支炎患者からヒューマンメタニューモウイルスが検出されています。なお、小児科定点のinf.AH3型が分離された1人とInf.B型(Victoria系統)が分離された1人、内科定点のInf.B型(山形系統)が分離された1人はヒトコロナウイルスとの重複、小児科定点のInf.B型(山形系統)が分離された1人はヒューマンメタニューモウイルスとの重複検出例でした。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

3月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から20件、定点以外の医療機関等からは2件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2)、チフス菌、サルモネラが検出されました。

その他の感染症の検体受付は小児科定点から7件で、A群溶血性レンサ球菌が5件検出され、基幹定点からは黄色ブドウ球菌が4件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌が4件検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(3月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	3月			2013年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	20	2	1	35	5
菌種名						
赤痢菌					1	
腸管出血性大腸菌			1			4
チフス菌		1			3	
サルモネラ		16			16	
不検出	0	3	1	1	15	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	3月			2013年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	7	8	0	18	14	13
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			1	1	
	T2			2		
	T6			2		
	T4			4		
	T28			2		
	T B3264			2		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		4			6	
バンコマイシン耐性腸球菌					1	
インフルエンザ菌				1		1
肺炎球菌				1	2	
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌		4		2	4	
結核菌						10
不検出	1	0	0	1	0	0

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】